



あなたに届けたい 高校生が見つけた 丹後の魅力

宮津天橋高校宮津学舎フィールド探究部と与謝野町は、私たちの足元にある魅力を高校生の視点で伝える特集をスタートさせます。掲載するテーマは「川づくり」「丹後体験ツアー」「丹後の在来タンポポ」「巨樹調査」の4つ。高校生たちが地域の人たちと共に学び、共有したい丹後の魅力はどんなことなのか。今月号は、第1話として「川づくり」をテーマにお届けします。

※ 10、11 ページに記事を掲載しています

● 公益財団法人日本自然保護協会主催 日本自然保護大賞 (子ども・学生部門)

フィールド探究部は、公益財団法人日本自然保護協会主催の日本自然保護大賞 2022 で最高賞にあたる大賞 (子ども・学生部門) を受賞しました。地域の人たちと共に丹後半島に存在する巨樹や在来種のタンポポ調査、子どもたちが安心して遊べる川づくりへの活動が評価され受賞にいたりしました。受賞にあたり石本貫志さん(3年・橋立中)は「卒業生や地域の方々のご協力で、活動を充実させることができました。今後も一層頑張っていきますので、私たちの活動を応援していただけると嬉しいです」と受賞の喜びを話してくれました。



「地域の財産(ひと・もの・こと)への理解を深め、新たな価値を創造する」を目的に2015年から活動しているフィールド探究部。現在、19人が所属し、「大手川の生物調査と環境作り」「丹後体験ツアー」の企画運営、「在来タンポポの調査」「巨樹の調査」など、平日の放課後や土日を中心に活動しています。活動の中で「丹後には独特の気

候風土に根ざした暮らしのおもしろさがあり、新たな働き方で価値を創造している人がいます。私たちが知らない魅力がたくさんあることを知りました」と部員たち。しかし、同級生や丹後に住む小中高生は「都会に住みたい」という憧れを抱き、丹後の魅力を知らないまま進路を決めていることに危機感を持つと同時に、寂しさを感じると話します。

フィールド探究部の活動内容や過去の受賞歴などは、宮津天橋高校ホームページ(右記の二次元コード)からご覧いただけます。



そこで、フィールド探究部と与謝野町では、部員たちが地域の人から学んだことを地域に還元し、足元にある丹後の魅力を発見、再認識する機会にするため広報紙での掲載を企画。掲載する記事は、部員たちが作成したものです。ぜひ、ご家族一緒にご覧ください。

まちの話題お届けします



● 加悦谷祭・岩滝祭・三河内曳山祭 来年こそはにぎやかな祭りに



東町岩滝大神楽保存会による神楽舞

与謝野町の一大行事「春の例祭(加悦谷祭・岩滝祭・三河内曳山祭)」。今年も新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、祭礼は中止となりましたが、神事や神楽奉納などが行われました。

板列稻荷神社(岩滝)では、昨年に続き関係者や住民が見守る中、新型コロナウイルス感染症の早期終息を願い東町岩滝大神楽保存会による神楽舞が奉納されました。また、神社によっては神輿の組み立て方の練習や太鼓や笛を披露するなど、来年を見据えた動きも見られ、関係者からは「来年こそは賑やかな春祭りにしたい」との声が聞かれました。

● 戦没兵士慰霊品返還式 ふるさとに返ってきた父の慰霊品



返還された父の慰霊品を前に涙を浮かべる国忠さん(写真右)

太平洋戦争で亡くなった陸軍兵士黄前典夫さんのおおまえのりおの慰霊品をご遺族の黄前国忠さん(男山)らに返還する「戦没兵士慰霊品返還式」が、5月15日、知遊館で関係者出席のもと行われました。

宮津市奥波見で生れた典夫さんは、沖縄の最前線で戦う部隊に入隊。1945年、沖縄戦最大級の戦いの1つ「嘉数の戦い」で亡くなりました。当時、沖縄で従軍していた米軍兵が、寄せ書きの入った日章旗などを米国に持ち帰り大切に保管しており、親族が遺族に返したいと、2020年に米国の非営利団

● 第71回阿蘇海一周マラソン大会 橋立中、江陽中が大会新記録を樹立



第1中継所に飛び込んでくる江陽中と橋立中のランナー

宮津与謝地域の中学校が出場する阿蘇海一周マラソン大会が5月7日に開催され、懸命にたすきをつなぐランナーが天橋立や阿蘇海沿いを駆け抜けました。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となったこの大会は、天橋立の文珠をスタート・ゴールとし、宮津市、伊根町、与謝野町の中学校から5校11チームが出場。6区間12.8kmで争われ、序盤から橋立中Aチームと江陽中Aチームが抜け出す展開に。し烈な先頭争いが続く中、6区で逆転した江陽中Aチームが大会新記録でゴールテープを切りました。町内から出場した各校と各チームの大会結果は以下のとおりです。

大会結果

- 総合の部
 - 1位 橋立中(大会新)、2位 江陽中(大会新)
- チームの部
 - 1位 江陽中A(大会新)、2位 橋立中A(大会新)
 - 3位 橋立中B、4位 江陽中B

体オボンソサエティーに相談。この度、京都府遺族会や与謝郡遺族連合会の協力のもと返還にいたりしました。70年以上の時を超えて父の慰霊品を目にした国忠さんは「この日を迎えることができ、この上なく感激しています」と胸に込み上げる思いを話してくれました。

KEYWORD <<< 慰霊品返還式

平成30年度から一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、米国のNPOオボンソサエティーと連携して実施している「戦没者等の遺留品返還に伴う調査」の一環として実施されている式。